



令和4年11月第46号(鶏)
東部・北部家畜防疫獣医師会
(公社)千葉県畜産協会
東部家畜保健衛生所
TEL: 0475(52)4101
FAX: 0475(52)3335
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kh-toubu/index.html>

福島県、和歌山県で高病原性鳥インフルエンザの 疑似患畜確認！(今季国内20、21例目)

【農場の概要】

○20例目

所在地：福島県伊達市

飼養状況：約1.7万羽(肉養鶏)

経緯：11月28日、死亡羽数増加の通報を受け、農場へ立入。簡易検査で陽性。
29日、遺伝子検査でHPAI疑似患畜であることを確認。

○21例目

所在地：和歌山県和歌山市

飼養状況：約4.6万羽(採卵鶏)

経緯：11月29日、死亡羽数増加の通報を受け、農場へ立入。簡易検査で陽性。
30日、遺伝子検査でHPAI疑似患畜であることを確認。

消毒薬を効果的に使いましょう！

【鶏舎周辺への消石灰散布】

時間をかけて病原体を不活化します。**野生動物への忌避効果**もあります。
降雨後に乾燥したり、野外に長期間放置すると消毒効果はなくなります。
頻繁に撒き直しましょう！

【低温時の消毒】

逆性石けんは低温下に効果が低下します！
(アストップ、パコマ、ロンテクト、パンパックス等)

★**アルカリ剤を添加する等**の工夫が必要です！

使用例)

逆性石けん(500～1000倍) 10L

食品添加物規格消石灰1握り(17g)

※食品添加用以外の消石灰は不純物を多く含むため、**必要量が多**くなります。

【踏み込み消毒】

長靴は3分間の漬け込みが必要です。

糞便等の汚れは消毒効果を落とします。きれいに洗浄してから、
消毒槽につけましょう！

高病原性鳥インフルエンザの続発を踏まえた緊急提言 (第81回家きん疾病小委員会 R4年11月28日)

全国的に過去に類を見ない程に本病の感染リスクが高まっています！
引き続き、飼養衛生管理を徹底し、最大限の警戒感をもって対応しましょう！

【現状】

本年9月以降、野鳥等から高病原性鳥インフルエンザウイルスが数多く確認されており、全国的に環境中のウイルス濃度が非常に高まっている状況です。10月28日の初発以降、11月28日までに19例の発生が確認されており、過去最多52例の発生が確認された2020-2021年シーズンを上回るペースとなっています。

【家きん飼養農場における防疫対策】

1. 農場・鶏舎出入時の衛生対策

- ・鶏舎に出入りする従業員等に、消毒、長靴の交換等の重要性を説明し、**適切に消毒や長靴の交換ができていますか再確認しましょう！**
- ・鶏舎の出入りの際にウイルスを鶏舎内に持ち込まないよう、**衛生管理区域に入る際の適切なタイミングでの専用衣服の着用、鶏舎ごとの専用長靴の設置、手指消毒及び長靴の消毒交換等の適正な衛生管理が日常的に行われているか再確認しましょう！**
- ・長靴等の汚れをおとしてから消毒を行い、消毒薬は汚れた都度、**最低でも1日1回以上は交換しましょう！**
- ・長靴の交換の際は、**交差汚染を防ぐ**ため鶏舎外と鶏舎内で使用する長靴の動線が交わらないように注意しましょう！

2. 農場内、鶏舎周囲の消毒（毎日）

- ・**ため池、水場の周囲はリスクが高いため、徹底して消毒しましょう！**

3. 農場、鶏舎内への野生動物侵入防止

- ・猫やイタチ等の小動物や野鳥等が農場に近づかない対策を行きましょう！
(農場内の整理整頓、除草、餌こぼしがないう定期的に清掃する)
- ・開放鶏舎のみならずウインドレス鶏舎のように、一見隙間がないように思われる鶏舎であっても、飼養衛生管理者と鶏舎構造を熟知している者等が連携してねずみや猫をはじめとした野生動物等が侵入しそうなルートを探し侵入防止対策を講じましょう！

【発生地域における防疫対策】

- ・近隣でHPAIが発生がある場合、水場が近くにある場合は、感染リスクが増大していることを念頭に**注意を払って行動してください！**

東部家畜保健衛生所

Tel.0475-52-4101

※夜間・休日は転送されますので、必ず5回以上コールしてください